

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年3月20日

事業所名 児童デイサービスくろーばー

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	1	0	・サーキット遊び等広々使えるようにしている	・個別活動や製作活動、児童の落ち着ける場所等利用目的に応じて使える場所を設ける。 ・物置、物品が少ない部屋をつくり集中できる環境を作っていく。
	2	職員の配置数は適切である	8	2	0	・配置基準以上の配置を行っている。	・土曜、祝日、学校長期休業時において、職員の休憩時間の確保に取り組んでいく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	9	0	1	・全フロアをフラットにしている。 ・トイレには、手すりを設置している	・子供の成長に合わせたテーブルとイスを準備していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	1	0	・1年の目標を設定している。振り返りも実施	・2月と9月に振り返り実施する。半年毎にしていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	0	0	・改善できるところは取り組んでいる	・改善できていないところをしっかりと取り組んでいく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10	0	0	・会報(くろーばーたより)での案内をしている	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	0	7		・令和6年度を目標に第三者評価を受ける予定
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	0	・毎月2回以上の研修を行っている	・研修内容を工夫していく。 (定型発達、障害種別、保育目線での遊びを通じた発達の促し方等)
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9	1	0	・Vineland-Ⅱの導入を行った	・アセスメント技術の向上を目指した研修と経験の積み重ねをしていく
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	2	・Vineland-Ⅱの導入を行った	・アセスメント技術の向上を目指した研修と経験の積み重ねをしていく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	1	0	・リーダー制で行っている。 ・週計画、月計画をチームで話し合っている。	・今後ともより丁寧な計画を立案していく
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	1	0	・週案を毎月作って固定しないようにしている	・今後ともより丁寧な計画を立案していく
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9	1	0	・利用時間の長さに合わせて支援内容を工夫している。 ・長期休暇等あらかじめ行う支援内容の設定をしている。	・短い平日の支援時間でも内容を工夫していく
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	10	0	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	0	0		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	1	0	・職員で共有している。翌日の朝礼で全体への共有をしている。支援ノートも活用 ・次の日の朝礼で必ず行っている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	1	0		・記録の付け方については、客観、主観をわかりやすく分ける方法等を工夫していく
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10	0	0	月に全員参加のモニタリングを2回行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	10	0	0			

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	1	0		
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10	0	0		
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	1	7	医療的ケア児を受け入れていない	
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	2	3	該当者がいれば実施している	
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	1	2	該当者がいれば実施している	
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	1	7		
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	2	8	コロナ禍で実施できず	五月以降に交流を検討している
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	2	4	開催が無かった	
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	0	0	連絡ノートやライン等を使用し、面談も活用し共通理解を持つようになっている。日々の送迎の際の申し送り時にも情報を共有している	
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	1	4	ペアレントトレーニングを実施していない。自治体や他事業所で十分な情報があれば紹介している。		
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	0	0	契約時に丁寧に伝えている。また保護者が疑問、確認をもつたら説明できるようにしている	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	4	0	・お母さんからの悩みには、耳を傾けて寄り添うようにしている。	保護者には寄り添い、一緒に解決策を考えていく。保護者の子育てする力を奪わないようにしていく
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2	4	コロナ禍で全体であつまることは実施できなかったが小グループで連携できるよう支援した	五月以降に検討している
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	1	0		年に2回、体制整備について周知する機会をもつ(5月、10月)
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	1	0	月に1回以上会報を発行し、Instagramでの活動状況も報告している	ホームページの充実も図っていく
	35 個人情報に十分注意している	10	0	0		個人情報や書類関係の処分基準を作成していく
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0	0		
非常時等の対応	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	1	5		
	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	1	2		
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	0	0	火災、地震・津波避難、防犯(不審者)訓練を行っている。	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	0	0	年に1回以上実施している。虐待事業の記事を積極的に共有し理解するよう努めている。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	0	3		身体拘束委員会を設置していく。必要性が出てくれば手続きを踏んでいく。また拘束した場合は記録に残していく。
42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	5	対象児童がいない 食物アレルギーの子は現時点でいない	食物アレルギーに対応できるよう研修会をもつ。	

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	0	0	ヒヤリハットが出た際は、書類を作成し情報を共有している	